

川崎市立 日本民家園

日本民家園だより 34号 平成8年3月31日 編集・発行 川崎市立日本民家園

菅原家 2階を初公開



合掌造りは妻側からみると、小屋組のところにも障子窓があって3階建てのようにみえます。来園の方からも2階・3階はどうなっているのか、上へあがってみたいという声がかれます。

そこで合掌造りと同じような構造をもつ菅原家（旧山形県東田川郡朝日村所在）の雪囲いによって、平成7年11月24日から12月9日までは炉端の会によって、休日を除く毎日、その後は川崎文化財友の会の協力で毎週木曜日に2階を公開しております。

豪雪期には中2階に設けられた高ハッポー窓から出入りするそうですが、小屋組の内部は合掌造りと同じような太い叉首が並んで力強く、なかなか見ごたえがあります。

平成8年度は原則として年間を通し、毎週木曜日に2階を含めた室内を公開する予定です。

2階を見学される方は、内部が暗いので頭上および足元にご注意下さい。

学校の体験学習

日本民家園では春と秋に市内の学校の団体見学が多く見られます。これらの中で、特に小学校3年生では3学期の単元の中に「市のうつり変わり」といった項目があり、博物館や郷土資料館の見学が組み込まれていますので12月から2月頃まで毎日数校が民家園を訪れています。また、この授業では、ただ見学するだけではなく、道具に触れたり、使用するといった実技体験が望まれていますので民家園でもそれらに対応するよう体験学習を受け入れています。今年度は多摩区、宮前区、高津区の学校を中心に約40校が学習しました。現在実施している内容としてはつぎのものが 있습니다。

◎大八車をひいてもらい、車輪の存在、物を運ぶ苦勞、知恵を体験し学んでもらう。

◎石臼（ひき臼）で実際、大豆・米などをひいてもらい、石臼の構造や昔の人の屋内での労働を知ってもらう（ひく大豆や米などは学校で用意）。

◎なわない。わらじなど藁製品の基本となる縄をなう（材料の藁は学校で用意）。

基本的にはこの3つで、費用は無料ですが、なわないは別に指導者を依頼するため謝礼が必要となります。



「大八車」をひく

これらの体験学習は、時間や場所の関係もあり、1日1校となります。申込みは1ヶ月前に受け付けています。なお当日の準備、片付けは先生方にも協力をお願いしています。

今後はこの他にも農具の使用体験なども考えたいと思っておりますので要望がありましたら御気軽に民家園まで御連絡ください。



「石臼」をひく

チビッコわら細工教室

学校単位の体験学習の他に毎月第4土曜日（学校休みの日）にチビッコわら細工教室を民技会と共催で行っています。ぞうりや縄結びなどを製作体験する内容で、小学生から高校生までを対象としています。受講料・材料費とも無料ですので是非御参加ください。申込みはその月の1日から、定員10名になり次第〆切り。

作田家の「守札」調査

昔から神社や寺院が頒布するお札の効力は1年間というのが社会通念である。

江戸の町屋では、破棄されるお札が粗末になってはいけないと、師走に入るとお札を回収に家々を廻る雑芸人がいて、その数日後に伊勢神宮の大麻をもった御師が、また各戸を訪ねて歩くのが年末の風景であった。

ご存知のように反故となったお札は、小正月のドント祭に焼却されたのである。たとえば世田谷大場家の「嘉例年中行事」(文化6年)には古大札並に古守り札、神繩、煤拂竹共一緒に集、清浄の地に置、正月十五日朝、さいの神へ出し焚上る

とみえる。ところが「このあたり(東京都下多摩郡)の家では、昔は古いお札をためておく」と家難にあわないとあって、お札をたくさん束ねて屋根裏にとっておいたり、ヤバラ(屋根裏の棟部分)に縛りつけたり、神棚のお札貼りに重ねて貼ったりしていた。柳沢家(東京都国立市)でも、お札を千枚ためると家難除け、火事除けになると伝えられ(田野倉紀子「お札を中心とした信仰用具」)、柳沢家の場合は391枚が残されていた。

このような例は神奈川県秦野市の湯山家の1369枚(西海賢二「守札にみる庶民信仰」)、群馬県伊勢崎市岡本家の799枚(時枝 務「守札と信仰——農家における守札の存在形態」)、兵庫県神崎郡福崎町の平岡家の4050枚(菅根幸裕「守札の分析にみる村落の信仰」)、これは米俵で四俵が雷除けとして屋根裏にあげていたものという、等ボツボツであるが、全国各地から事例報告があがっている。そして、こうした性格で残されたお札のことを民俗学界では「守札」と称しているのである。

さて、平成6年春のある日、京都府山城町在住の小林凱之氏が当園を訪問された。同氏の住

宅は江戸時代の古民家で、京都府指定の重要文化財である。

凱之氏の話しによれば、平成3年文化財指定に伴う建造物調査のおり、ツシと呼ぶ天井裏から多数のお札が発見され、その後の整理作業によって総数903枚であることが判明し、「小林家の守札について」という調査報告もまとめられており、そのコピーをおいていかれたのである。

実は日本民家園に移築された旧作田家住宅にも多数のお札が残されており、それらは建物と共に当園へ寄贈されていたのであるが、本格的な整理は未着手の状態であった。

そこで小林氏の来園を機に調査を検討し、大岡文庫の目録作業、岡家資料の整理に引続き、川崎文化財友の会の協力を得て、最近ようやくその作業に着手したのである。

お札の総数は凡そ2000枚、現在1点1点についてカード化作業を進めており、殆どのものはその性格上、紀年銘などはみられないが、江戸時代から明治・昭和期に及ぶものと推定される。

上記岡本家の守札を調査した時枝氏は、お札を発行した社寺の分布などから同家に収まったお札を

- 1 氏子・檀家であるゆえにもたらされた
- 2 家族の者が参詣してうけてきた
- 3 遠方へ参詣した者の土産として
- 4 地元の神職から毎年定期にもたらされると4種類に分類されているが、九十九里浜の漁師の網元の家であった作田家の場合は、漁船が寄港さきでうけたと推定される全国各地のものが

あり、祈願の内容や、神符の形態など、さらに多様な分類が可能のようである。

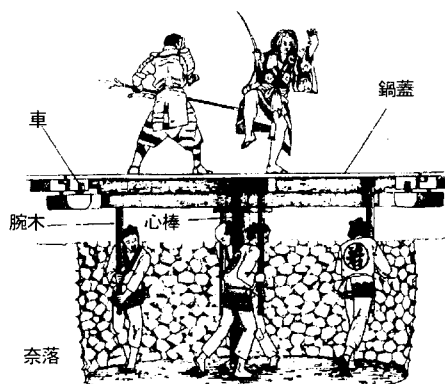
今後、作田家においてききとりなども行い、調査が終了後には、代表的なものを選び庶民信仰の証しである守札の展示を、旧作田家を会場に実施する予定である。

建物の見どころとしくみ —船越の舞台その2—

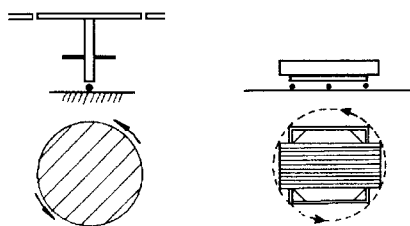
さて、舞台の床を見ると中央部が円形に切り込まれています。これが回り舞台とよばれる装置で、日本が世界にさきがけて考案したものと言われ、場面の転換の際に貴重な役割を果たします。船越の舞台の場合は、床下に奈落という凹みがあり、ここに心棒を固定して頂部で回り舞台（鍋蓋という）の中心部を支えています。また鍋蓋周囲下に回転を補助する車があります。そして鍋蓋下に取り付けた4本の腕木を押すことにより回転させるのです。こうした方式は、心棒上で鍋蓋を回転させることから皿回し式とよばれています。

これに対して、心棒と鍋蓋が一体で、心棒を回転させるものもあり、コマ回し式とよばれています。

以上は床が回転する形式の回り舞台ですが、床上に回転台を設けるものもあり、こちらの方が古い形式と考えられています。



日本民家園の回り舞台（皿回し式）



コマ回し式模式図*

回転台形式の模式図*

*松崎茂『日本農村舞台の研究』より抜粋

投書箱より

日本民家園の出口には投書箱が用意され、多くの入園者からご意見・ご感想が寄せられています。投書数は、ほぼその月の入園者数に比例し、5月・10月がそれぞれ100通を越します。

投書内容を分類し、その代表例をご紹介しますと

①中高年者より古民家を懐かしむ感想、

『建物を思い、父母の姿を思い、子供の頃を懐かしく思い出しました』

②施設管理や職員について、

『建物も増え整備も良く、手入れが行き届き、職員の親切な態度が気に入りました。』

『なによりもトイレがきれいであり、ボランティアの方々の暖かいもてなしもいろいろの火と同様暖かかったです。』

③民家園そのものについて

『神奈川のしかも川崎に、こんな素敵な所があるとは。』

『全国から民家を集められ見事です。』

『自然を利用して、非常に効果的に民家が配置され工夫されています。』

以上は成人からの投書の代表例ですが、老若男女を問わず、95%はお褒めの言葉です。

『個々の家の前に、その家の見どころを示してほしい。』

『車いすのためにももう少しゆるやかにできないものでしょうか。』

『スタンプを押すところをもっと増やして。』

『説明ボードの所に小ランプをつけて。』

ご意見もたくさん頂いています。

投書のことを英語でコントリビューションと言います。この元は貢献・寄与と言う意味だと思えます。入園者の投書が民家園の益々の発展のために貢献してくださっていることは大変有り難いことです。